

大学番号 1 4 1

注3

設置年度 平成 31 年度

計画の区分： 大学院の設置

注1

認可

横浜薬科大学大学院 薬学研究科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人都築第一学園

令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教務課

職名・氏名 ダイガクインフラントウ 大学院担当 ホンマ 本間 トシヒロ 敏弘

電話番号 0 4 5 - 8 5 9 - 1 3 0 0

（夜間） 0 4 5 - 8 5 9 - 1 3 0 0

e-mail toshihiro.honma@hamayaku.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

薬学研究科

＜薬学専攻博士課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	10
5. 教員組織の状況	11
6. 附帯事項等に対する履行状況等	19
7. その他全般的事項	21

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人都築第一学園

(2) 大 学 名

横浜薬科大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒245-0066

神奈川県横浜市戸塚区俣野町字東原601番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ツヅキ キミコ) 都築 仁子 (H16.5)		
学 長	(エサキ レオナ) 江崎 玲於奈 (平成18年4月)		
学 部 長	(シノヅカ タツオ) 篠塚 達雄 (平成30年4月)	(加藤 シスケ) 加藤 真介 (令和3年4月)	令和3年4月から就任 (3)
研究科長		(シノヅカ タツオ) 篠塚 達雄 (平成31年4月) (加藤 シスケ) 加藤 真介 (令和3年4月)	申請時には未定だったが、 平成31年4月から就任 (元) 学部長が兼任 令和3年4月から就任 (3) 学部長が兼任

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)
 令和3年度に報告する内容 → (3)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載 (昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正) するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
薬学研究科 薬学専攻 (博士課程) 博士(薬学)	薬学関係	4年	3人	年次人	12人		基礎となる学部等 健康薬学科 漢方薬学科 臨床薬学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	3人 () []	人 () []	3人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	0.89倍	—	
志願者数	() []	() []	() []	() []	6 (0) [1]	— (—) [—]	4 (0) [0]	— (—) [—]	1 (0) [0]	— (—) [—]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	6 (0) [1]	— (—) [—]	4 (0) [0]	— (—) [—]	1 (0) [0]	— (—) [—]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	5 (0) [1]	— (—) [—]	4 (0) [0]	— (—) [—]	1 (0) [0]	— (—) [—]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	5 (0) [1]	— (—) [—]	2 (0) [0]	— (—) [—]	1 (0) [0]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A					1.67		0.67		0.33				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	5 [0] (1)	— [—] (—)	2 [—] (—)	— [—] (—)	1 [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次			[] ()	[] ()	— [—] (—)	— [—] (—)	4 [—] [1]	— [—] (—)	2 [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	4 [—] [1]	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	5 [0] (1)		6 [0] (1)		7 [0] (1)		

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	人	人	平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	5 人	1 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	1 人	0 人	修学意欲の低下(1人)
令和2年度	6 人	0 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	7 人	0 人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

1

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{5} = \boxed{20} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{7} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<薬学研究科 薬学専攻博士課程>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
選択科目	分子薬化学特論	1前		2		2		3			兼2
	バイオリソクス創薬特論	1後		2		1					
	臨床生化学特論	2前		2		4	1				兼1
	臨床薬理学特論	2後		2		2		2			兼5
	臨床薬物送達学特論	1前		2		2	1	2			
	臨床薬物評価学特論	1前		2		4	1				
	分子衛生薬学特論	1後		2		3	2	1			兼1
	漢方医療薬学特論	2前		2		2	2				
	統合医療薬学特論	2後		2		1	2				兼1
	ファーマコトリス演習	1前		1		1		2			
	精密分析機器特別演習	1前		1		2	2	6			兼3
	小計(11科目)	-		20		15	6	7			兼12
必修科目	臨床薬学大学院特別講義	1通	1			1					
	課題研究	1-4通	20			13	6	7			
	小計(2科目)	-	21			13	6	7			
合計(13科目)			-	21	20		15	6	7		兼12
卒業要件及び履修方法											
大学院に4年以上在学し、必修科目21単位、及び選択科目9単位以上を修得し、合計30単位以上修得しなければならない。											

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
選択科目	分子薬化学特論 (未開講)	1前		2		3		2			兼2
	バイオリソクス創薬特論	1後		2							兼1
	臨床生化学特論	2前		2		4					兼2
	臨床薬理学特論	2後		2		2	1	1			兼5
	臨床薬物送達学特論	1前		2		1	1	2			
	臨床薬物評価学特論	1前		2		2	1				兼2
	分子衛生薬学特論 (未開講)	1後		2		3	3				兼1
	漢方医療薬学特論	2前		2		3	1				
	統合医療薬学特論	2後		2		2	1				兼1
	ファーマコトリス演習	1前		1		1	1	1			
	精密分析機器特別演習 (未開講)	1前		1		3	2	3			兼3
	小計(11科目)	-		20		16	6	4			兼14
必修科目	臨床薬学大学院特別講義	1通	1			1					
	課題研究	1-4通	20			14	8	4			
	小計(2科目)	-	21			14	8	4			
合計(13科目)			-	21	20		16	8	4		兼14
卒業要件及び履修方法											
大学院に4年以上在学し、必修科目21単位、及び選択科目9単位以上を修得し、合計30単位以上修得しなければならない。											

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
選 択 科 目	分子薬化学特論 (未開講)	1前		2		2		3			兼2
	バイオロジクス創薬特論	1後		2		1					
	臨床生化学特論	2前		2		5					兼1
	臨床薬理学特論	2後		2		2	1	1			兼5
	臨床薬物送達学特論	1前		2		2		2			
	臨床薬物評価学特論	1前		2		4	1				
	分子衛生薬学特論 (未開講)	1後		2		3	2	1			兼1
	漢方医療薬学特論	2前		2		2	2				
	統合医療薬学特論	2後		2		1	2				兼1
	ファーマコトリス演習	1前		1		1	1	1			
	精密分析機器特別演習 (未開講)	1前		1		3		6			兼3
小計(11科目)		－		20		16	5	6			兼12
必 修 科 目	臨床薬学大学院 特別講義	1通	1			1					
	課題研究	1~4通	20			14	5	6			
	小計(2科目)		－	21			14	5	6		
合計(13科目)		－	21	20		16	5	6			兼12
卒業要件及び履修方法											
大学院に4年以上在学し、必修科目21単位、及び選択科目9単位以上を修得し、 合計30単位以上修得しなければならない。											

【令和2年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
選 択 科 目	分子薬化学特論	1前		2		2		3			兼2
	バイオロジクス創薬特論	1後		2		1					
	臨床生化学特論	2前		2		5					兼1
	臨床薬理学特論	2後		2		2	1	1			兼5
	臨床薬物送達学特論	1前		2		2	1	1			
	臨床薬物評価学特論	1前		2		4	1				
	分子衛生薬学特論	1後		2		3	2	1			兼1
	漢方医療薬学特論	2前		2		3	1				
	統合医療薬学特論	2後		2		2	1				兼1
	ファーマコトリス演習	1前		1		1	1	1			
精密分析機器特別演習 (未開講)	1前		1		3	1	5			兼3	
小計(11科目)		－		20		16	5	6			兼12
必 修 科 目	臨床薬学大学院 特別講義	1通	1			1					
	課題研究	1-4通	20			15	5	5			
	小計(2科目)	－	21			15	5	5			
合計(13科目)		－	21	20		17	5	5			兼12
卒業要件及び履修方法											
大学院に4年以上在学し、必修科目21単位、及び選択科目9単位以上を修得し、 合計30単位以上修得しなければならない。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教員の昇格により、「臨床生化学特論」の専任教員配置を「教授4」、「准教授1」から「教授5」に変更。
- ・教員の昇格により、「臨床薬理学特論」の専任教員配置を「講師2」から「講師1」、「准教授1」に変更。
- ・教員の昇格により、「ファーマコトキクス演習」の専任教員配置を「講師2」から「講師1」、「准教授1」に変更。
- ・教員の就任辞退（退職）により、「臨床薬物送達学特論」の専任教員配置のうち「准教授1」を削除。
- ・専任教員の昇格及び就任辞退（退職）により、「精密分析機器特別演習」の専任教員配置を「教授2」、「准教授2」から「教授3」に変更。
- ・専任教員の昇格及び就任辞退（退職）により、「課題研究」の専任教員配置を「教授13」から「教授14」に、「准教授6」から「准教授5」に、「講師7」から「講師6」へ変更。

【令和元年度】

- ・教員の昇格により、「臨床薬物送達学特論」の専任教員配置を「講師2」から「准教授1」、「講師1」に変更。
- ・教員の昇格により、「漢方医療薬学特論」の専任教員配置を「教授2」、「准教授2」から「教授3」、「准教授1」に変更。
- ・教員の昇格により、「統合医療薬学特論」の専任教員配置を「教授1」、「准教授2」から「教授2」、「准教授1」に変更。
- ・教員の昇格により、「精密分析機器特別演習」の専任教員配置を「講師6」から「准教授1」、「講師5」に変更。
- ・専任教員の昇格により、「課題研究」の専任教員配置を「教授14」、「准教授5」、「講師6」から「教授15」、「准教授5」、「講師6」へ変更。

【令和2年度】

- ・教員の辞任（退職）及び新規採用により、「分子薬化学特論」の専任教員配置を「教授2」、「講師3」から「教授3」、「講師2」に変更。
- ・教員の異動（博士後期課程へ）により「バイオリジクス創薬特論」の専任教員等配置を「教授1」を兼任1に変更
- ・教員の辞任（定年）により、「臨床生化学特論」の専任教員等配置を「教授5」から「教授4」、兼任1に変更
- ・教員の新規採用により、「臨床薬物送達学特論」の専任教員配置を「教授2」、「准教授1」、「講師1」から「教授1」、「准教授1」、「講師2」に変更
- ・教員の異動及び辞任（定年）により、「臨床薬物評価学特論」の専任教員等配置を「教授4」、「講師1」から「教授2」、「講師1」、兼任1・兼任1に変更
- ・教員の昇格により、「分子衛生薬学特論」の専任教員配置を「准教授2」、「講師1」から「准教授3」に変更
- ・教員の辞任（退職）及び昇格により、「精密分析機器特別演習」の専任教員配置を「准教授1」、「講師5」から「准教授2」、「講師3」に変更
- ・教員の辞任（定年・退職）、異動、昇格、新規採用により、「課題研究」の専任教員配置を「教授15」、「准教授5」、「講師5」から「教授14」、「准教授8」、「講師4」に変更

【令和3年度】

特になし

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	11 科目	0 科目	13 科目	2 科目 [0]	11 科目 [0]	0 科目 [0]	13 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{13} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備考		
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		大学全体 （学部と共用） 校地・校舎変更届提出（校 地区分の修正） （30）		
	校 舎 敷 地	56,734㎡ 60,233㎡	㎡	㎡	56,734㎡ 60,233㎡				
	運動場用地	2,251㎡	㎡	㎡	2,251㎡				
	小 計	58,985㎡ 62,484㎡	㎡	㎡	58,985㎡ 62,484㎡				
	そ の 他	12,757㎡ 9,258㎡	㎡	㎡	12,757㎡ 9,258㎡				
	合 計	71,742㎡	㎡	㎡	71,742㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		大学全体（学部と共用）		
		29,829㎡ 29,687㎡ 29,715㎡ (29,687㎡) (-29,715㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	29,829㎡ 29,687㎡ 29,715㎡ (29,687㎡) (-29,715㎡)		校舎変更届（元） 建築等設置計画変更書 （元） 校舎変更届（2）		
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 増築に伴う講義室の増加 （元）		
		2 4 -2-2室	4 室	9 室	2 室 （補助職員 1人）	2 室 （補助職員 1人）			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		薬学研究科薬学専攻（博士課程）			24 室				
(5)図書・設備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	研究科単位での特定不 能なため大学全体の数 実績（元） 実績（2） 実績（3）	
		電子ジャーナル 〔うち外国書〕							
	薬学研究科 薬学専攻 （博士課程）	40,000 [7,100] 39,232 [6,026] 38,614 [6,055] 36,129 [6,036] (33,502 [6,975])	630 [115] 726 [128] 714 [128] 685 [121] 630 [115]	80 [79] 103 [102] 96 [95] 88 [87] 80 [79]	620 629 628 606 605	4,760 4,758 — — —4,760—	0 0 0		
	計	40,000 [7,100] 39,232 [6,026] 38,614 [6,055] 36,129 [6,036] (33,502 [6,975])	630 [115] 726 [128] 714 [128] 685 [121] 630 [115]	80 [79] 103 [102] 96 [95] 88 [87] 80 [79]	620 629 628 606 605	4,760 4,758 — — —4,760—	0 0 0		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		1,531㎡		427席		55,000冊			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		1,989㎡		屋内テニスコート 4面 2,961㎡ —					
(8)経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体 研究科単位での算出不能な ため、学部との合計図書購 入費には電子ジャーナル・デ ータベースを含む
		教員1人当り研究費等	1,000千円 —900千円	1,000千円 —900千円	図書購入費	3,100千円	3,100千円	3,100千円	
		共 同 研 究 費 等	20,000千円 30,000千円	20,000千円 30,000千円	設備購入費	170,000千円 100,000千円	170,000千円 100,000千円	170,000千円 100,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費から機器備品支 出を除外、設備購入費に管 理用機器備品支出を加算 （元）	
		1,100千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	— 千円	— 千円		
			学生納付金以外の維持方法の概要		資産運用、事業収入				

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（2）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	横 浜 薬 科 大 学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所 在 地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
大学院 薬学研究科											
薬科学専攻（博士前期課程）	2	8	—	16	修士 (薬科学)	1.13	1.13	—	平成31年度	神奈川県横浜市戸塚区俣野町字東原601番1号	
薬科学専攻（博士後期課程）	3	2	—	2	博士 (薬科学)	0.50	0.50	—	令和3年度	同上	
薬学専攻（博士課程）	4	3	—	9	博士 (薬学)	0.89	0.33	—	平成31年度	同上	
大学院全体		13	—	27		0.84	0.85	—			
薬学部											
健康薬学科	6	60	—	360	学士 (薬学)	1.09	1.00	—	平成18年度	神奈川県横浜市戸塚区俣野町字東原601番1号	
漢方薬学科	6	120	—	720	学士 (薬学)	1.10	1.01	—	平成18年度	同上	
臨床薬学科	6	160	—	960	学士 (薬学)	1.11	1.09	—	平成18年度	同上	
薬科学科	4	30	—	120	学士 (薬科学)	1.02	0.93	—	平成27年度	同上	
大学全体		370	—	2,160		1.06	1.03	—			

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜薬学研究科 薬学専攻（博士課程）＞

（１）－① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	金 成俊 (63) ＜平成31年4月＞ 博士（臨床薬学）
		漢方医療薬学特論
専	教授	小笹 徹 (63) ＜平成31年4月＞ 医学博士
		臨床生化学特論 課題研究
専	教授	中野泰子 (63) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床生化学特論 臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	榊原 巖 (61) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学討議 課題研究
専	教諭	山田 博章 (60) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	弓田 長彦 (59) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床薬物送達学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	教授	栗原 隆 (59) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		ハ イロシ ャ創薬特論 臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	埴岡 伸光 (59) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	岡 美佳子 (58) ＜平成31年4月＞ 理学博士
		臨床生化学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	教授	千葉 康司 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		臨床薬理学特論 臨床薬物送達学特論 臨床薬物評価学特論 ファーマコトキシ演習 課題研究
専	教授	佐藤 康夫 (58) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子薬化学特論

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	金 成俊 (63) ＜平成31年4月＞ 博士（臨床薬学）
		漢方医療薬学特論
専	教授	小笹 徹 (63) ＜平成31年4月＞ 医学博士
		臨床生化学特論 課題研究
専	教授	中野泰子 (63) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床生化学特論 臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	榊原 巖 (61) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学討議 課題研究
専	教諭	山田 博章 (61) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	弓田 長彦 (59) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床薬物送達学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	教授	栗原 隆 (59) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		ハ イロシ ャ創薬特論 臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	埴岡 伸光 (59) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	岡 美佳子 (59) ＜平成31年4月＞ 理学博士
		臨床生化学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	教授	千葉 康司 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		臨床薬理学特論 臨床薬物送達学特論 臨床薬物評価学特論 ファーマコトキシ演習 課題研究
専	教授	佐藤 康夫 (58) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子薬化学特論

【令和２年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	金 成俊 (64) ＜平成31年4月＞ 博士（臨床薬学）
		漢方医療薬学特論
専	教授	小笹 徹 (64) ＜平成31年4月＞ 医学博士
		臨床生化学特論 課題研究
専	教授	中野泰子 (64) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床生化学特論 臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	榊原 巖 (62) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学討議 課題研究
専	教諭	山田 博章 (62) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	弓田 長彦 (60) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		精密分析機器特別演習 課題研究 臨床薬物送達学特論
専	教授	栗原 隆 (60) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		ハ イロシ ャ創薬特論 臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	埴岡 伸光 (60) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	岡 美佳子 (60) ＜平成31年4月＞ 理学博士
		臨床生化学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	教授	千葉 康司 (59) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		臨床薬理学特論 臨床薬物送達学特論 臨床薬物評価学特論 ファーマコトキシ演習 課題研究
専	教授	佐藤 康夫 (59) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子薬化学特論

【令和３年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	金 成俊 (65) ＜平成31年4月＞ 博士（臨床薬学）
		漢方医療薬学特論
専	教授	小笹 徹 (65) ＜平成31年4月＞ 医学博士
		臨床生化学特論 課題研究
兼任	教授	中野泰子 (65) ＜令和3年4月＞ 博士（薬学）
		臨床生化学特論 臨床薬物評価学特論
専	教授	榊原 巖 (63) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学討議 課題研究
専	教諭	山田 博章 (63) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	弓田 長彦 (61) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		精密分析機器特別演習 課題研究
専	講師	矢野 健太郎 (41) ＜令和3年4月＞ 博士（薬科学）
		臨床薬物送達学特論
兼任	教授	栗原 隆 (61) ＜令和3年4月＞ 薬学博士
		ハ イロシ ャ創薬特論 臨床薬物評価学特論 課題研究
専	教授	埴岡 伸光 (61) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	岡 美佳子 (61) ＜平成31年4月＞ 理学博士
		臨床生化学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	教授	千葉 康司 (60) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		臨床薬理学特論 臨床薬物送達学特論 臨床薬物評価学特論 ファーマコトキシ演習 課題研究
専	教授	佐藤 康夫 (60) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子薬化学特論

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	香川 聡子 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	田邊 由幸 (55) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床生化学特論 臨床薬理学特論 臨床薬学大学院特別講義 課題研究
専	教授	越智 定幸 (52) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	庄司 満 (47) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
		分子薬化学特論 課題研究
専	准教授	梅原 薫 (57) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学特論 課題研究
専	准教授	川嶋 剛 (56) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床生化学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	准教授	喻 静 (53) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学特論 課題研究
専	准教授	速水 耕介 (51) ＜平成31年4月＞ 博士（農学）
		臨床薬物評価学 分子衛生薬学特論 課題研究
専	准教授	大河原 晋 (50) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	准教授	西 弘二 (43) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬物送達学特論
		精密分析機器特別演習 課題研究
専	講師	岡田 賢二 (48) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬理学特論 ファーマコトキシ演習 課題研究

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	香川 聡子 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	田邊 由幸 (55) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床生化学特論 臨床薬理学特論 臨床薬学大学院特別講義 課題研究
専	教授	越智 定幸 (52) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	庄司 満 (47) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
		分子薬化学特論 課題研究
専	准教授	梅原 薫 (57) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学特論 課題研究
専	教授	川嶋 剛 (56) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床生化学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	准教授	喻 静 (53) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学特論 課題研究
専	准教授	速水 耕介 (52) ＜平成31年4月＞ 博士（農学）
		臨床薬物評価学 分子衛生薬学特論 課題研究
専	准教授	大河原 晋 (50) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	弓田 長彦 (59) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床薬物送達学特論
専	講師	岩瀬 由未子 (42) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬物送達学特論
専	准教授	岡田 賢二 (48) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬理学特論 ファーマコトキシ演習 課題研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	香川 聡子 (59) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	田邊 由幸 (56) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床生化学特論 臨床薬理学特論 臨床薬学大学院特別講義 課題研究
専	教授	越智 定幸 (53) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	庄司 満 (48) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
		分子薬化学特論 課題研究
専	教授	梅原 薫 (58) ＜令和元年8月＞ 博士（理学）
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学特論 課題研究
専	教授	川嶋 剛 (57) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床生化学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	准教授	喻 静 (54) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学特論 課題研究
専	准教授	速水 耕介 (53) ＜平成31年4月＞ 博士（農学）
		臨床薬物評価学 分子衛生薬学特論 課題研究
専	准教授	大河原 晋 (51) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	弓田 長彦 (60) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床薬物送達学特論
専	准教授	岩瀬 由未子 (43) ＜令和元年12月＞ 博士（薬学）
		臨床薬物送達学特論
専	准教授	岡田 賢二 (49) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬理学特論 ファーマコトキシ演習 課題研究

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	香川 聡子 (60) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	田邊 由幸 (57) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床生化学特論 臨床薬理学特論 臨床薬学大学院特別講義 課題研究
専	教授	越智 定幸 (54) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	教授	庄司 満 (49) ＜平成31年4月＞ 博士（理学）
		分子薬化学特論 課題研究
専	教授	梅原 薫 (59) ＜令和元年8月＞ 博士（理学）
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学特論 課題研究
専	教授	川嶋 剛 (58) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床生化学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	教授	塚本 裕一 (49) ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	准教授	喻 静 (55) ＜平成31年4月＞ 博士（医学）
		漢方医療薬学特論 統合医療薬学特論 課題研究
専	准教授	速水 耕介 (54) ＜平成31年4月＞ 博士（農学）
		臨床薬物評価学 分子衛生薬学特論 課題研究
専	准教授	大河原 晋 (52) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 課題研究
専	講師	矢野 健太郎 (41) ＜令和3年4月＞ 博士（薬科学）
		臨床薬物送達学特論
専	准教授	岩瀬 由未子 (44) ＜令和元年12月＞ 博士（薬学）
		臨床薬物送達学特論
専	准教授	岡田 賢二 (50) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬理学特論 ファーマコトキシ演習 課題研究

【認可時又は届出時】			【令和元年度】			【令和2年度】			【令和3年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	講師	岩瀬 由未子 (42) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	講師	岩瀬 由未子 (42) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	准教授	岩瀬 由未子 (43) ＜令和元年12月＞ 博士（薬学）	専	准教授	岩瀬 由未子 (44) ＜令和元年12月＞ 博士（薬学）
		臨床薬物送達学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			臨床薬物送達学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			臨床薬物送達学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			臨床薬物送達学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	講師	礪部 隆史 (41) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	講師	礪部 隆史 (41) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	講師	礪部 隆史 (42) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	准教授	礪部 隆史 (43) ＜令和3年1月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	講師	吉門 崇 (36) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	専	講師	吉門 崇 (36) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	専	講師	吉門 崇 (37) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	専	講師	吉門 崇 (38) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床薬理学特論 臨床薬物送達学特論 ファーマコトキシ演習 精密分析機器特別演習 課題研究			臨床薬理学特論 臨床薬物送達学特論 ファーマコトキシ演習 精密分析機器特別演習 課題研究			臨床薬理学特論 臨床薬物送達学特論 ファーマコトキシ演習 精密分析機器特別演習 課題研究			臨床薬理学特論 臨床薬物送達学特論 ファーマコトキシ演習 精密分析機器特別演習 課題研究
専	講師	酒井 佑宜 (37) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	講師	酒井 佑宜 (37) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	講師	酒井 佑宜 (38) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	講師	酒井 佑宜 (39) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	講師	鰐淵 清史 (35) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	講師	鰐淵 清史 (35) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	講師	鰐淵 清史 (36) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	専	講師	鰐淵 清史 (37) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究
専	講師	増井 悠 (34) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）	専	講師	増井 悠 (34) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）	専	講師	増井 悠 (35) ＜平成31年4月＞ 博士（工学）	専	教授	塚本 裕一 (49) ＜令和3年4月＞ 博士（工学）
		分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 精密分析機器特別演習 課題研究			分子衛生薬学特論 課題研究
兼任	教授	石井 邦雄 (68) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	教授	石井 邦雄 (68) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	教授	石井 邦雄 (69) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	教授	石井 邦雄 (70) ＜令和3年4月＞ 薬学博士
		臨床生化学特論			臨床生化学特論			臨床生化学特論			臨床生化学特論
兼任	教授	石毛 敦 (65) ＜平成31年4月＞ 医学博士	兼任	教授	石毛 敦 (65) ＜平成31年4月＞ 医学博士	兼任	教授	石毛 敦 (66) ＜平成31年4月＞ 医学博士	兼任	講師	伊藤 亜希 (54) ＜令和3年4月＞ 博士（薬学）
		統合医療薬学特論			統合医療薬学特論			統合医療薬学特論			統合医療薬学特論
兼任	教授	曾根（福田） 秀子 (60) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	教授	曾根（福田） 秀子 (60) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	教授	曾根（福田） 秀子 (61) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	教授	曾根（福田） 秀子 (62) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		分子衛生薬学特論			分子衛生薬学特論			分子衛生薬学特論			分子衛生薬学特論
兼任	教授	友部 浩二 (57) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	教授	友部 浩二 (57) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	教授	友部 浩二 (58) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	教授	友部 浩二 (59) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床薬理学特論			臨床薬理学特論			臨床薬理学特論			臨床薬理学特論

【認可時又は届出時】			【令和元年度】			【令和２年度】			【令和３年度】		
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	藤森 順也 (57) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	准教授	藤森 順也 (57) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	准教授	藤森 順也 (58) ＜平成31年4月＞ 薬学博士	兼任	准教授	藤森 順也 (59) ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		臨床薬理学特論			臨床薬理学特論			臨床薬理学特論			臨床薬理学特論
兼任	准教授	川嶋 芳枝 (53) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	兼任	准教授	川嶋 芳枝 (53) ＜平成31年4月＞ 博士（学術）	兼任	教授	川嶋 芳枝 (54) ＜令和2年4月＞ 博士（学術）	兼任	教授	川嶋 芳枝 (55) ＜令和2年4月＞ 博士（学術）
		精密分析機器特別演習			精密分析機器特別演習			精密分析機器特別演習			精密分析機器特別演習
兼任	准教授	磯村 茂樹 (49) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	准教授	磯村 茂樹 (49) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	教授	磯村 茂樹 (50) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	教授	磯村 茂樹 (51) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		分子薬化学特論			分子薬化学特論			分子薬化学特論			分子薬化学特論
兼任	准教授	日塔 武彰 (49) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	准教授	日塔 武彰 (49) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	准教授	日塔 武彰 (50) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	教授	日塔 武彰 (51) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬理学特論			臨床薬理学特論			臨床薬理学特論			臨床薬理学特論
兼任	准教授	出雲 信夫 (46) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	准教授	出雲 信夫 (46) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	教授	出雲 信夫 (47) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	教授	出雲 信夫 (48) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬理学特論			臨床薬理学特論			臨床薬理学特論			臨床薬理学特論
兼任	准教授	村田 実希郎 (46) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	准教授	村田 実希郎 (46) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	准教授	村田 実希郎 (47) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	教授	村田 実希郎 (48) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		臨床薬理学特論			臨床薬理学特論			臨床薬理学特論			臨床薬理学特論
兼任	講師	殿岡 恵子 (38) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	講師	殿岡 恵子 (38) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	講師	殿岡 恵子 (39) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）	兼任	准教授	殿岡 恵子 (40) ＜平成31年4月＞ 博士（薬学）
		精密分析機器特別演習			精密分析機器特別演習			精密分析機器特別演習			精密分析機器特別演習
兼任	講師	奥野 義規 (38) ＜平成31年4月＞ 博士（薬科学）	兼任	講師	奥野 義規 (38) ＜平成31年4月＞ 博士（薬科学）	兼任	講師	奥野 義規 (39) ＜平成31年4月＞ 博士（薬科学）	兼任	講師	奥野 義規 (40) ＜平成31年4月＞ 博士（薬科学）
		分子薬化学特論 精密分析機器特別演習			分子薬化学特論 精密分析機器特別演習			分子薬化学特論 精密分析機器特別演習			分子薬化学特論 精密分析機器特別演習

- （注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実（実）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・西弘二准教授就任辞退（退職）により、弓田長彦教授及び岩瀬由未子講師に変更。平成31年1月教員審査済み。
- ・川嶋剛准教授が教授に昇格。平成31年1月教員審査済み。
- ・岡田賢二講師が准教授に昇格。平成31年1月教員審査済み。

【令和元年度】

- ・梅原薫准教授が教授に昇格。令和元年7月教員審査済み。
- ・岩瀬由未子講師が准教授に昇格。令和元年11月教員審査済み。

【令和2年度】

- ・磯部隆史講師が准教授に昇格。令和2年11月教員審査済み。
- ・増井悠講師の退職により、塚本裕一教授を新規採用。令和2年11月教員審査済み。
- ・松岡秀忠准教授、高橋栄造准教授、矢野健太郎講師を新規採用。令和3年1月教員審査済み。
- ・中野泰子教授が定年退職したため、専任から兼任に変更。
- ・栗原隆教授を専任から兼任に変更（薬科学専攻博士後期課程の専任教員に異動）。

【令和3年度】

特になし

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
5	5	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
15	6	7	0	28	0	16	8	4	0	28	0
(16)	(5)	(6)	(0)	(27)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数				研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			
21	5	2				20	6	2			
(20)	(5)	(2)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
16	8	4	0	28	0	16	8	4	0	28	0
[1]	[2]	[Δ3]	[0]	[0]	[0]	[1]	[2]	[Δ3]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数				研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			
20	6	2				21	6	2			
[Δ1]	[1]	[0]				[0]	[1]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長し て採用する教員数
65	2	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{28} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{28} = \boxed{7.14} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	西 弘二	H30.9	選択	臨床薬物送達学特論	①	H309 一身上の理由のため就任辞退（退職）（30）			
				選択	精密分析機器特別演習	③				
				必修	課題研究	③				
合 計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）	③の合計数（c）		
1	人	必修	1	科目	必修	0	科目	必修	1	科目
		選択	2	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	1	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	講師	増井 悠	R2.6	選択	分子薬化特論	①	R2.6 一身上の理由のため辞任（退職）（3）	
				選択	精密分析機器特別演習	③		
				必修	課題研究	①		
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）		
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
1	人	必修	1	科目	必修	0	必修	0
		選択	2	科目	選択	1	選択	0
		自由	0	科目	自由	0	自由	0
		計	3	科目	計	2	計	0

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）								
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
2	人	必修	2	科目	必修	1	科目	必修	0	科目	必修	1	科目
		選択	4	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	3	科目	計	0	科目	計	3	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{2}{28} = 7.14 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	中野 泰子	選択	臨床生化学特論	②	R3.3定年退職（3）	
			選択	臨床薬物評価学特論	②		
			必修	課題研究	③		
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
1	人	必修	1 科目	必修	0 科目	必修	1 科目
		選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	3 科目	計	0 科目	計	1 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 退職した増井悠講師の「分子衛生薬学特論」、「課題研究」については新規採用した専任教員が担当する(A C審査済(R2.11))ため支障はない。また「精密分析機器特別演習」については、オムニバス科目でかつ、退職した教員の担任回は、複数の教員による共同授業であり1名が欠けても支障はないため、補充は行わなかった。

・ 「臨床生化学特論」、「臨床薬物評価学研究」については、引き続き同一の教員が兼任として担当し、特に問題はない。

・ 学生への周知はオリエンテーションでの専任教員等の説明、シラバス等への反映を行った。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	1. 入学者の選抜の方法について、「大学在学中の成績を含めた書類の審査及び面接試験並びに筆記試験により合格判定を行う」とされているが、筆記試験の内容を明確に示すこと。	入学者選抜は、①推薦入試、②一般入試③社会人入試の3つの区分で計画し、筆記試験は、推薦入試及び社会人入試については小論文を一般試験においては、専門科目についていずれも記述式を主とした試験（60分）を計画・実施いたしました。 小論文試験は、薬学分野に関するトピック等に関し出題した2問中1問を選択し解答（800字）する方式としました。 専門科目試験は、①創薬化学（有機化学、医薬品合成化学、天然物化学を含む）、②ライフサイエンス（薬理学、機能形態学、生化学、分子生物学を含む）、③ヘルスサイエンス（衛生化学、環境衛生学、食化学を含む）、④臨床薬学（臨床薬理学、薬物治療学、薬物動態学、医薬品評価学を含む）、⑤漢方薬学（漢方薬学、生薬学、薬用植物学を含む）の5つの研究領域の中から、出願時に研究領域を選択した上で、出題した問題（3～5問）中から2問を選択し解答する方式としました。 募集要項等では、これらの要領について具体的に明らかにして、入学試験を実施いたしました。（元）	履行済
認 可 時 (平成30年)	2. 設置の趣旨・目的が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	認可申請後、大学院設立準備室及び大学院設立準備委員会を発足させ、教職員が一体となった開設準備体制を構築して、先行的に開設のための諸準備を進めてまいりました。認可受け後は、速やかに大学院に係る入試要領、履修規程等の制定、備品類の取得等の諸準備を整齊円滑に実施して、平成31年4月に予定通りの開設にいたることができました。 教育については、設置計画に基づき計画通りに開講（履修者がいなかったため未開講となった科目を除く）するとともに、設置の	履行中

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)		趣旨・目的等について学生便覧、シラバス等に明記し、その徹底を図っております。また、研究室に配分する研究費についても大学院生が配置される研究室への増額を図る等、教育研究の充実に努めております。管理面においても、学則、研究科委員会規程に基づき開設後すみやかに研究科委員会を開催し、今後の運営方法の確認を図るとともに、履修要望に基づく授業時間割の確認、研究指導教員の決定、教場の使用等についての協議・確認を行いました。引き続き、設置計画の確実な履行と教育研究の更なる充実に努めて参ります。 (元)	履行中
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<薬学研究科 薬学専攻 博士課程>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
施設設備 地学実習室等の増築（155.97㎡） 平成30年9月完成予定 （施設の建築計画の見直し）	令和元年9月完成 学生ニーズを踏まえた使用目的・用途等の見直しにより建物の仕様が変更になったこと等により工期が延長されるもの。 大学院の教育・研究では使用する頻度がほとんどないため支障はない。（元）

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 学部と合同な組織として、学部長（研究科長兼）、各学科長さらに教務部長からなるFD委員会を設け、教育方法等の改善のための組織的な研修会や研究会を行うことによって教員の資質の維持向上に努めています。 別添資料 「横浜薬科大学 FD委員会運営規程」 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に対応した広報やオンライン授業についての研修を主体に、広報会議や教授会等の場を活用し参加範囲を拡大し、努めて多くの教職員が参加できる形で実施した。 ・ R2. 6. 11 学園総長、副学長、学部長以下教員111名、職員67名（オンラインで実施） ・ R2. 10. 12 副学長、学部長以下教員101名、管理職職員15名（一部オンラインで実施） ・ R2. 12. 8 副学長、学部長以下教員99名 ・ R3. 2. 3 副学長、学部長以下教員109名 c 委員会の審議事項等 ・ 学生募集の方向性について ・ オンライン講義及び対面授業とのハイブリッド授業について ・ 入学試験の状況について ・ 科学研究助成金の採択状況等について ② 実施状況 a 実施内容 ・ 広報会議、教授会等の場を活用したFD・SD研修会の実施 ・ 教員の資質向上を目的とした評価基準等の設定・見直し ① 第三者評価における基準の遵守 ② 教員採用、昇格の基準の見直し ③ 教育方針（指針）の見直し、学位論文審査基準の検討等 ・ ワーキンググループによる活動 b 実施方法 ・ FD・SD研修会の実施（講義形式） - オンライン講義及び対面授業とのハイブリッド授業等について ・ 教員の資質向上を目的とした評価基準の設定	
--	--

・授業評価等の実施：
講義終了後に科目の「授業に関するアンケート」をとり、教員に自分の授業に対する正しい評価を知ってもらい、次年度以降の教育改善に資することとしています。
学部と同様にアンケート集計結果等を、必要により研究科委員会等を通じて大学院教員間で情報を共有できるように努めています。これにより、学生の意見も真摯に受け止め、教育の質の維持・改善に役立てています。

5

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD・SD研修会の実施（R2.2.4） 教員：100名、職員：58名
- ・授業評価等の実施：各学期末に実施予定
- ・ワーキンググループの改変：新たに設置したWGは、業務目標が明確なため、WGの活動はWG構成員が全員参加し活発に実施され、成果を収めている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

設置計画のとおり講義は履行することができ、現時点で大きな授業改善事項は生じておりませんが、一部オムニバス講義の順次の変更等、適宜にカリキュラムの見直しを実施しております。引き続き、FD・SD活動等を通じ教育・研究の質の維持・向上に努めてまいります。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学部と同様に授業終了後に各科目の「授業に関するアンケート」をとっています。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果は担当教員自らの手で集計して自己評価を行うとともに研究科委員会等を通じ教員間の情報共有を図っています。また必要によって、FD委員会で管理・保存する予定です。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

a ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見 薬学専攻博士課程では、医療薬学及び基礎薬学に関する研究活動を自立して行い、多様化する精密医療における新たな課題に取り組むとともに、高齢化や少子化を背景とした地域医療における安全管理に基づく諸問題を解決できる、多角的かつ高度な医療薬学研究能力を有する人材を養成することを目的としている。 開設初年度については、入学定員3名に対して入学者5名（受験者6名）であり、うち3名が社会人という結果であった。また本年度は、社会人2名の入学者（受験者4名）を得ることができ、所期の目的にそった学生確保がなされているものと思料しています。 教員組織については、適時に教員審査を受審して専任教員を確保するとともに、開講予定科目についても予定通り開講できており、現段階では、設置計画のとおり概ね履行していると思料しています。 引き続き、設置の趣旨・目的を達成するために、教育研究活動等の状況について自己点検・評価を行い、教育研究水準の向上および活性化を図って行く予定です。 ② 自己点検・評価報告書 a 公表（予定）時期 ・ 横浜薬科大学 自己点検・評価報告書 令和3年3月31日 公表 b 公表方法 ・ 大学ホームページ上に公開 ③ 認証評価を受ける計画 ・ 令和元年度に、評価機関（薬学教育評価機構）へ自己点検評価書を提出し、令和2年3月適合認定を受けた。 ・ 令和4年度に、機関別認証評価（日本高等教育評価機構）を受審予定である。
--

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度） a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） b 公表有の場合の公表（予定）時期 （令和 3 年 6 月 末日 ） b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

横浜薬科大学 FD委員会運営規程

(目 的)

第1条 横浜薬科大学（以下「本学」という。）の教育研究水準の向上を図り、大学の目的および社会的使命を達成するために FD 委員会（以下「委員会」という。）を置き、学外との連携に努め、教員の資質向上、教育方法及び教育内容の改善につとめる。

(組 織)

第2条 本学にファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を組織する。

2 委員会は、学長補佐、学部長、学科長 4 人、教務部長をもって構成する。

3 委員会には委員長を置き、学長補佐がその任にあたる。

4 委員長は、必要と認めた場合は、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(審議事項)

第3条 委員会は次の事項を審議する。

(1) 本学の「建学の精神」及び「教育理念」の全教員への周知徹底に関する事項

(2) 「FD セミナー」および「FD 研究会」開催に関する事項

(3) 薬学教育者ワークショップ等への積極的な参加に関する事項

(4) 「参観授業」の実施に関する事項

(5) 「授業に関するアンケート調査」および「聴き取り調査」実施に関する事項

(事 務)

第4条 委員会に関する事務は、教務課が処理する。

(改定及び廃止)

第5条 この規程の改定及び廃止は、教授会の意見を聴いて、学長が行う。

附 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日より施行する。

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日より施行する。

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。